＜先週の説教から＞

『ヘブライ㊹－神様の子どもとして』

武田真治牧師

箴言 ４：２０-２７　ヘブライ書 １２：４-１３

長く続いた“信仰の章”である 11 章を踏まえて、この12章から著者の読者に伝えたいメッセージが語られ始めます。最初に「こういうわけで、このようにおびただしい証人の群れに囲まれている以上、自分に定められている競争を忍耐強く走り抜こうではありませんか」と、当時のオリンピック等で実施されていたレース（＝スタディオン）を例にして私たちが参加すべき“信仰生活というマラソン”を走り抜こうという奨めでした。それに続いて今日の箇所でも「あなたがたはまだ、罪と戦って血を流すまで抵抗したことがありません」と語り掛けます。実はこれも当時の格闘技（＝パン・グラディオン）に喩えている言葉なのです。この格闘技は一対一で戦い、相手が敗北を認めるまで続きます（ここからグラディエーターという言葉が生まれた）。まさに「血を流す」格闘技なのです。そしてまだまだあなたがたはそこまでの戦いをしていないと言うのです。この言葉は、おもにまだ信仰を持って間もない信仰者たちに向けて言われています。厳しいですね。なぜこのように言われているのでしょうか？

その理由が次の５節の「主の鍛錬を軽んじてはいけない」という言葉に込められています。ここでの「軽んじる」のもともとの言葉は「拒む」です。おそらく、信仰者として喜びと希望を持って歩み始めた人たちにとって、かえって厳しい出来事や逆境と思えるような問題が降りかかってくると『あり得ない』とか『どうして神様は守ってくれないのか』と思ってしまうからでしょう。それに対してこれらの出来事はむしろ神様から与えられている“試練＝鍛錬”であると考えてほしいと。自分にとって受け入れやすいことばかりでなく、少々辛く感じることも「拒む」ことなく受け止めて、乗り越えて行ってほしいと。そうしてこそ、信仰の成長が与えられて行くからという思いなのでしょう！

そして一番大事な点は、それこそ「神は、あなたがたを子として取り扱っておられます。もしだれもが受ける鍛錬を受けていないとすれば、それこそ、あなたがたは庶子であって、実の子ではありません。」です。私たちはみんな父なる神様に愛されている実子だと。続けて「肉の父はしばらくの間、自分の思うままに鍛えてくれましたが（＝過去形）、霊の父はわたしたちの益になるように、御自分の神聖にあずからせる目的でわたしたちを鍛えられるのです」と。なるほどですね。そして、この著者が本当によく分かっているなあと思うのはその次に続く言葉で「およそ鍛錬というものは、当座は喜ばしいものではなく、悲しいものに思われるのですが、後になると義という平和に満ちた実を結ばせる」です。彼自身も辛い試練に遭って来たのだと思わされます。そのような逆境の中でもなんとかして“信仰生活というマラソン”を走り抜いてほしいという切なる思いがここにあります！

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【今週の集会】

＊聖書研究・祈祷会　Ⅰ．３月 22 日（水）20：00
Ⅱ．３月 23 日（木）10：30

聖　　書：　ハイデルベルク信仰問答
祈祷主題：　未陪餐会員を覚えて
担 当 者：　（水）喜嶋　（木）西尾
祈りに覚える人：　岡田さん　岡野さん

【教勢報告】

主日礼拝　　男 21　　女　53　　計 74
祈祷会　Ⅰ．男6　女2　計 8　　Ⅱ．　休会
日曜学校　　幼稚科 14　小中科 14　計 28
ハンナの会〈3 月 14 日(火)〉　男 1　女 8　　計 9

【次週主日礼拝】　　３月　２６日（日）

聖　書：　詩　編　　３１：１～２５
コリントの信徒への手紙　Ⅱ、４：７～１６
説　教：　「詩　編㉛―時についての神学」
武田　真治　牧師
讃美歌：　２９６(1)、３２(1)、聖歌隊（＝２９２）、
５１５(1と2)、３８６(1と2)、２４

【次週当番表】

司式:羽倉長老　奏楽:勝村　礼拝:茨木長老
献金：岡本　小草　　受付：金剌　坂田
会堂準備：大野　勝村　黒澤　西尾
看板：中村　　週報：飯島　　お花：飯島

【次週集会予定】

礼拝前：・求道者会　・聖書輪読会
礼拝後：・礼拝/伝道/没会/教育/社会 各委員会
・聖歌隊練習

６４－１２

週　報

2022 年度　教会標語

「礼拝に支えられ、共に生きよう！」

２０２３年　　３月　１９日

日本キリスト教団　**上尾合同教会**
牧　師　　武田　真治

〒362-0041　上尾市富士見２－３－33
TEL＆FAX　048－771－6549
http://www.ageo-church.org/